

## 令和4年度 第2回 南魚沼市男女共同参画推進委員会 議事録

と き：令和4年11月2日（水）13時30分から14時40分まで

ところ：南魚沼市役所 本庁舎3階 委員会室

### 1 出席者

【南魚沼市男女共同参画推進委員会委員】（以下、五十音順）

足立 知彦委員、井口 光雄委員、片桐 壮一委員、勝又 由美子委員、川島 亜紀子会長、  
小林 邦男副会長、豊田 春美委員、並木 富美子委員、目黒 敦子委員 以上9名

【事務局】

高橋企画政策課長、見留企画主幹、平松主事、青木主事

### 2 議事

【1】開会 （進行：見留企画主幹）

課長挨拶（高橋企画政策課長）

【2】議事 （進行：川島会長）

（1） 第3次基本計画に基づく推進プラン振り返りについて

（説明：青木主事）

（委員）

2-6-23 で若者まちづくり会議というものがありません。これは令和元年から未実施になっているということですが、私とその事業を承知しておりませんで、まずこの事業がどのようなものなのかということが1点。それから第4次計画には記載がないように思うのですが、不要と考えていることなのか、あるいは、取組がなかなか難しいだろうという考えなのかその辺のところをお聞かせいただければと思います。

（青木主事）

まず、内容ということでご説明させていただきます。私もこの若者まちづくり会議に平成30年の頃に参加しました。市の若者に集まっていただいて、「市がこうなっていってもっと魅力のある街になるよね」ということをワークショップの形でアイデアを出し合っていた。そして、それを実際に政策として実現できればいいなという位置づけであったと認識しています。

第4次計画に掲載しなかったという点については、市民の方の声を集める場は設ける必要があると認識をしていますが、市政懇談会とは異なる形式で、特に若者の声を集める場の整備や、こういった形で設けるかというところまで検討できていない部分がありました。ですので、整備ができてから掲載をさせていただくということで事務局としては考えております。

#### (高橋企画政策課長)

補足させていただきますが、私が以前に企画政策課に所属していたときに始まった取組です。市政懇談会などで市民の方の声を集めることを行っていたのですが、若い方からの参加が少なく、どのようにしたらよいかを考えていました。また、地方創生ということが叫ばれ始めた時期で、若い人たちに集まってもらい、人口が減ってくるときにこの街をどうしていったらよいかということなどを障壁がない中で話をさせていただくという位置づけで、若者まちづくり会議という取組を始めました。コーディネーター役を川島会長(まちネット育ちの種)から担っていただいて、「若者まちづくり会議」だと固い会議の印象をうけますので、通称名を「若まちカフェ」と名付けていただき、様々に意見を出していただいたものを人口減少対策やいい地域づくりに反映していければということで始めたものであって、数年間実施しました。

令和元年には取組が終了となったのですが、周辺の自治体では同じような取組を始めたところもあります。

#### (委員)

同じ内容で聞いていいですか。私もタイトルすらも知らなかったのですが、まちづくり協議会というものがありますよね。あれの若者版みたいな感じに思えばいいのですか。

#### (会長)

それとは別のもので、若者がこの市がどんなことがあったら楽しいかなとか、どんなことがあれば住み続けられるかなということを、本当にざっくばらんに意見を出し合い、その中から出てきたものを形にしていったり、自分の中に吸収したりという中で、若い人たち同士でグループができ上がってイベントを実施するなど、そこから何か派生していったらいい市になっていくのではないかとということで若者まちづくり会議がスタートしました。

#### (委員)

それがコロナで挫折したのですか。

**(会長)**

その前から挫折しています。やはり、継続する中で新しい方がなかなか参加しづらいとか、市では実現できないような内容も増えてきたということが背景としてあります。一方で、自分たちだけで行動できる若者たちが増えてきたということもあり、若者まちづくり会議は一旦休止という形になっています。

では、ほかに何かご質問等ございますか。私のほうから1点よろしいですか。2ページの1番下段のDVに関するところですか。目標、実績というのは分かるのですが、令和3年度の評価理由が、10代の妊娠届がゼロでしたということで評価がAになっています。少しこの実績と理由が結びついてないような感じがするところと、10代の妊娠がゼロというのは現実的に本当なのかなと感じます。10代というと19歳までの数値を言うと思いますが、ここが果たして本当にゼロなのかという疑問がありましたので、少し確認をしていただけますか。

○10代の妊娠届提出数

令和2年度、令和3年度と0人でした。

**(2) 第4次基本計画に基づく推進プランについて (説明：青木主事)**

**(委員)**

今の内容ですと、第3次計画の評価の仕方とはどこが違いますか。

**(青木主事)**

担当課の振返りに対して意見をいただく点が第3次と第4次で異なる部分です。第3次計画は、担当課が1年間目標に従って取り組んで、振返りまで行うわけですけれども、そこで例えば企画政策課のものであれば、企画政策課が今年は目標に沿って頑張った結果がA評価だということであれば、その時点で振返りが終わっていました。その振返りが、次の年度に活かされていたかと言われると、なかなかつながっていなかったのではないかと感じています。第4次計画からは担当課が振り返ったものを委員の皆さんから確認いただいて、この振返りは少し不十分ではないかとか、来年度はこうしたほうがいいのかという部分に御意見をいただいて、次の年度に反映することでよりよい計画、活動につながるのではないかなと考えます。

**(委員)**

第4次計画の推進プランでは、担当課が細分化されていますが、例えば保健や子育ての分野は一つの課だけではなくて横の連携が必ず出てくると思います。様々な部分に行き届くように、横の連携をとるための細分化をしたやり方をしていくのかなと思ったの

です。というのは、第3次するときも市民会議において活動内容に対して年度末に評価する機会がありましたが、意見をしても次の年度の取組につながっていませんでした。担当課が細分化されることで各施策が行き届くような形になっていくのかなというように感じたのですが、そういう見方でよいのでしょうか。

**(青木主事)**

基本計画の構成は、基本目標、重点目標、施策の基本的方向という体系がある中で、それらを実現するためには、各担当課でそれぞれに取り組むことで達成されていくという考え方であります。担当課が行った事業に対して、委員から意見をいただき、担当課に返してあげることは、第三者から見られているということになりますので、担当課の身も引き締まり、次年度の計画につながっていくのではないかと考えています。

**(委員)**

4ページの③に、男女共同参画推進委員の意見欄というものがあり、推進委員の中で評価を出し、一つ一つの事業に対してコメントを出すとしています。これは、一つ一つの事業をよく知らない、意見というものはコメントとして出せないと思うのですが、委員として非常に重たい感じがするので、評価の仕方やコメントの仕方をはっきりと決めていただくとやりやすいのではないかなと感じました。

**(青木主事)**

全てに目を通してそれぞれにコメントをすることは難しいと事務局としても承知をしております。委員委嘱をお願いするときに、基本目標の分野ごとに選定をさせていただいている背景もありますので、得意な分野について重点的にご確認いただくとか、見方として担当課の評価は少し過剰じゃないかという部分だったり、来年度に向けてこういう形で計画を立てればいいのかという部分だったり、そのような建設的な意見があると、担当課にとってよい意見になるかなと思います。加えて、委員の名前と併せてコメントが載るものではありません。お願いするときは、方法を整理したものをお示しさせていただいて、評価をお願いしたいと考えています。

**(委員)**

委員としてコメントを出すわけですから、責任を持った形で出さないといけないなと思いました。

**(会長)**

他にございますか。私から一点、やはり今の意見にあったとおりで、私たちが意見や評価をするということになりますので、取組実績のところはできるだけ細かくとは言い

ませんが、わかりやすく書いていただければ評価がしやすいかなと思います。また、私たちの中でも考え方が全く違うと思いますので、集約については大変になるかと思いますが事務局にお願いしたいと思います。

**(委員)**

関連なのですけれども、価値観というか、価値の評価というのは当然ながら人ごとに違います。ですので、基準が見えないと関わるできないと感じます。委員は行政が行っていることに対しての評価をするわけですが、各事業の実績というものは、事業を実施して市民がどのような状態になったかということだと思います。そうしたときに、実績を出していくためには市民の行動が大きく関わってくるわけなので、横の連携を図って行政に興味をもって頂けるように評価の基準を考えてみてください。

**(青木主事)**

今のところの案では、委員からコメントと、A・B・Cの評価をしていただくとしていますが、案なので変更することは可能です。委員のお話を聞いていると、評価をつけるということが難しいという印象を受けますが。

**(会長)**

評価まで私たちがしているのかなと感じます。

**(青木主事)**

それでは、担当課の評価を受けて委員からはコメントをするのみということにしてよろしいでしょうか。

**(委員)**

セミナーを開催して5人しか参加者がいなかったときに、今まで参加者がいなかったとしたらそれだけでも評価は高くなると思います。ですので、柔軟性のある言葉の評価のみでよいと思います。

**(高橋企画政策課長)**

担当課は今までどおりA・B・Cの評価をして、委員からはコメントで意見をいただき、事務局はコメントを見て担当課と評価を調整するという方法が考えられるかと思いません。

**(会長)**

今まで行政の中だけで評価が完結していたものが、私たち市民が見ることでいい刺激

になるかと思えます。私たちも、次年度はよりよくしようという気持ちが生まれるようなコメントをしなければというプレッシャーも感じながら、評価をしていければと思います。2月、3月ごろに担当課からの評価があり、私たちがコメントをするとなると定期的にタイトなスケジュールになると思えますので、委員の皆さんも少し負担が増えると思えますが、その辺についても大丈夫でしょうか。

**(高橋企画政策課長)**

恐らく、令和5年度が始まるころに全ての計画がそろっているということは難しいと思えますが、その点についてはご容赦いただきたいと思えます。

**(委員)**

早めに資料をいただくと中がよく見られてコメントがしやすいと思えますのでよろしくをお願いします。

**【3】 その他 (進行：川島会長)**

事務連絡 (説明：平松主事)

**【4】 閉会 (川島会長)**

(14時40分閉会)